

## 川崎市立井田病院（川崎市中原区）

安西秀美

川崎市立井田病院は川崎市のほぼ中央部、中原区の井田山と通称される丘陵地帯の高台に位置し、桜やボランティアの方々が手入れを下さる庭園、蛍の放流が行われる“中原区市民健康の森”に囲まれています。交通の便は日吉駅前から徒歩12分ですが、途中“心臓破りの坂”と言われる急な坂道を上ります。

神奈川県内は坂のある地域が比較的多いと思われませんが、日吉界限もかなり急で細い坂道を多く見かけます。以前は冗談交じりに“心臓病と肺病の人は登って来られない所に病院がある”と言われていたようですが、現在は日吉駅から7～10分間隔でバスが運行されており、数分で到着します。ある日、日直当番から帰ろうと病院を出ると、まるで北国のように一面膝まで降り積もる雪で途方に暮れましたが、チェーンを巻いたバスの果敢な運転と、翌朝近隣住民の方の丁寧な雪かきに頭が下がる思いでした。

昭和24年に開設された結核療養所を前身とし、平成10年にはかわさき総合ケアセンターが開設され、緩和ケア病棟（ホスピス）を有しており、その後井田病院がんセンター開設、地域がん診療連携拠点病院にも認定されております。建物の老朽化に伴い、全面建て替え（再編整備）工事が行われ、平成25年から26年にかけて新棟が完成、移転致しました。現在383床の病床数で、救急部およびその後方病床HCUが移転にあたり拡充され、平成28年4月からは地域包括ケア病棟もスタートしました。

長年けいゆう病院から、それに引き続いて慶應義塾大学皮膚科学教室からの非常勤体制が続いていた井田病院皮膚科ですが、平成26年1月より1人常勤医として教室から私が赴任させて頂いており、平成27年4月よりおかげ様でようやく2人常勤体制となり、副医長として角田梨沙先生が教室から赴任され



後列左より：医師事務補助、皮膚科外来看護師、受付クラーク  
前列左より：角田梨沙医師、筆者（平成28年3月撮影）

ています。また、非常勤医師として、北里研究所病院皮膚科の佐藤友隆先生に火曜日の一般外来を、亀谷葉子先生に水曜日の一般外来と火曜および水曜日午後の特殊外来・外来手術などをお手伝い頂いています。日本皮膚科学会認定専門医研修施設として今後研修医の指導・教育も行っていく予定です。

非常勤時代の液体窒素と真菌鏡検用の顕微鏡からスタートし、公の病院のため一歩ずつという形で、リングフラッシュのカメラ、ダーモカメラ、病理用顕微鏡、ハイフリ、炭酸ガスレーザー、モノクロ酢酸（薬剤部の院内作成OKをとるのに一苦労……SADBEは結局許可が下りず仕舞いです……）など少しずつ備品が増え、昨年秋ようやくハンディタイプのエキシマが入りました。特殊外来では、エキシマ照射の他、自費診療で、比較的ニーズの高い爪処置として、爪のグラインダー処置・ガター／マチワイヤー／クリップなどを行っています。個室ブースで窓がないため、グラインダー時の爪の飛散対策として、色々案を練った結果、訪問歯科科技工作業用の穴開き箱を利用し重宝しています。

皮膚科一般外来は平日午前中で、紹介状をお持ち

でなく受診された方にも対応しています。その他、生検は随時対応、他科依頼にもできるだけ迅速に対応できるよう心掛けており、褥瘡回診では褥瘡の他、いわゆるスキンケアなどのスキントラブルに対するチーム医療が充実されつつあります。手術は皮膚科外来にて行う小手術、手術室で行う手術の他、必要時は形成外科など他科との連携をはかっており、皮膚良性腫瘍や悪性腫瘍、植皮の手術件数も徐々に増えてきています。病院の規模的に、比較的他科の先生と“顔が見えやすい”環境にあり、心強く思っています。

井田病院の特殊性としては、小児科・産科がない事、癌拠点病院である事や、他の施設でもみられる傾向ですが高齢者が多い事です。小児科がないため、子どもの患者数は少なく、一夏過ぎても一般的な子どもの膿痂疹や伝染性軟属腫などには全くお目にかからず、RA加療歴の長い高齢者の非典型的な膿痂疹やHIV関連の伝染性軟属腫に出くわすといった日々です。ガス壊疽や壊死性筋膜炎などの重症感染症や下肢動脈・静脈疾患、高齢の皮膚腫瘍が比較的多い印象です。大学病院の外来のように、毎日重症や珍しい疾患に出会えるという頻度ではありませんが、週に何度かはハッとさせられるケースや興味深

い病理所見に出会います。こちらの目が曇って見逃してしまわないよう、忙しくても惰性に陥らない事、すぐにスッキリとする答えが出せなくても決してうやむや・曖昧のまま埋もれさせない事をモットーに、日々精進すべきと感じています。

緩和ケア病棟もあるせいか、疾病中心とならず、患者さんの立場にたつての医療・ケアを心がける素地があると思われ、新棟移転や再編などに伴い、そういったヒューマニズムあふれる気質が失われなと良いと感じております。

外来では曜日により1診～2診体制をとり、看護師さん2名、クラークさん1名、医師事務補助さん1名前後のスタッフで対応しています。

慶應義塾大学病院皮膚科学教室とのパイプの他、今後病診連携、病病連携をはかり、地域の一基幹病院として、市立病院として、お役にたてればと思います。近隣の病院・診療所の先生方に連携をお願いする事も増えるかと思われます。今後とも皆様のご協力およびご指導ご鞭撻を賜りたく、宜しく願い致します。

(平成28年4月より大井裕美子先生着任。6月で角田先生は退職致しました)

## 横浜総合病院 (横浜市青葉区)

鈴木 琢

横浜総合病院は横浜市北東部医療圏の地域中核病院として、1988年に開設された300床の病院で、主に急性期医療を担っております。地域の特徴として、都内と比較して高齢者の施設が多いことであり、超高齢者の受診ないし入院をたびたび経験します。最寄り駅は東急電鉄田園都市線のあざみ野駅ですが、距離以上に高低差があり、バスないし自家用車での利用が主となっております。

以前は比較的短期間での担当医師の変更があり、一時常勤医不在の時期がありましたが、2014年11月より私、鈴木が東邦大学医療センター大橋病院皮膚科より常勤医として赴任し、2015年4月より鈴木里

沙医師が赴任し、現在2名の常勤医および隔週での土曜日の非常勤医での体制で診療を行っております。

診療は皮膚科全般を行っておりますが、美容皮膚科は現在行っておりません。外来での小手術や生検(主に火曜日午後に施行)を積極的に施行して確定診断を行うようにしており、必要に応じて他科へのコンサルトをしております。

外来は午前および午後を併せて平均60～70名、入院は5～6名です。主な症例は帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、薬疹・中毒疹、蕁麻疹、熱傷などです。入院による手術件数が比較的小さいです。これは当院にて形成外科(非常勤)および創傷ケアセンター

が併設されている影響と考えますが、可能な限り当科でも施行していく所存です。

また当院の位置する青葉区周辺には、昭和大学藤が丘病院・北部病院および聖マリアンナ医科大学病院があり、必要に応じて難治ないし重症例につきまして紹介させていただいております。

今後、皮膚科全般はもとより common disease の徹底、周辺のクリニック等の医療機関との病診連携の強化に努めるとともに、自分の専門領域であります帯状疱疹および神経痛、真菌感染症（特に爪白癬）、褥瘡、および最近取得いたしました難治性尋常性乾癬に対する生物学的製剤の使用についても前任地での経験を生かして重点を置くことができればと思います。



後列：医員および外来スタッフ  
前列左より：鈴木里沙医師、筆者（鈴木琢）

## 横須賀共済病院（横須賀市）

内田敬久

当院は、横須賀中央駅から徒歩7分の飲食店が立ち並ぶ賑やかな場所に立地しています。しかし周囲には、桜の名所である中央公園や、日露戦争にて活躍した戦艦「三笠」が保存されている三笠公園があり、ちょっと散歩するには良い環境だと思います。当院10階の食堂からは東京湾を望み、昼食を摂りながら猿島や千葉県房総半島を眺めることもでき、忙しい午前の診療後の昼食はいささか気分転換になります。

病院の歴史は古く、日露戦争直後の1906（明治39）年から海軍病院として開設され、今年で創立109年目を迎えようとしております。病床数は750床で、長い間三浦半島全体の基幹病院として主に急性期医療を担っております。また、慢性期病床として174床あった分院（以前の北部共済病院）が昨年度をもって閉鎖されたため、後方病院（衣笠病院、聖ヨゼフ病院、三浦市立病院）との地域連携も始まり、今後は基幹病院とそのサポート病院がそれぞれの役割に応じ、地域に根差した円滑なシステム作りを目指しています。

当科は、長い間ご勤務された一山伸一先生が平成



26年度をもってご退職されました。横須賀セントラルホテルにて開催致しました「一山伸一先生感謝会」には、今まで当科に携わった諸先生方40名程にご参加頂き、一山先生の故郷である青森県八戸市の郷土料理によるおもてなし、入局～現在までの懐かしい写真スライド供覧、皆様の心温まるお言葉の数々により、終始和やかでアットホームな雰囲気の会となりました。ご参加された皆様、誠にありがとうございました。

初代の澤泉健二郎先生、そして一山先生を継いで平成26年度から3代目の部長として私が就任したわ

けですが、出身はここ横須賀であり、地元の横須賀高校卒業後、富山大学を経て横浜市立大学皮膚科学教室に入局致しました。入局4年目、前主任教授であります池澤善郎先生のご指導の下、皮膚科の大学院に入り、腸管免疫を研究させていただきました。卒業後は横浜保土ヶ谷中央病院勤務、大学医局長を経て、現職に至りました。気づけば医師となって早18年目となりました。今後も先輩方の意志を継いで、働きやすい、活気のある職場作りを心掛けていきたいと思っております。どうかよろしくお願い致します。

当科の日常診療におきましては、皮膚科常勤医は6名であり、毎週水曜日午後には一山先生に診察のお手伝いをお願いしております。

外来診療につきましては、患者数は1日120～140人であり、予約制をとっております。予約のない患者様におきましても紹介状があれば拝見させて頂いております。

午前中は新患・予約患者の診察、午後は光線外来(月・水・金)20人前後、外来手術4件(中央手術がある時は2件)、往診5～8件、また、特別外来として木曜日には乾癬外来5人前後、脱毛症外来3人前後、フットキュア外来(形成外科と一緒に)5人前後、火曜日には褥瘡委員会として回診を行っております。この中で、光線療法は全身ナローバンド、

エキシマライト、手足用・局所ナローバンドを使用しており、乾癬外来では治験や生物学的製剤導入、新患患者の診察を行っております。平成27年の外来手術数は500件ほどでした。また、陥入爪に関しては、マチワイヤー、CO<sub>2</sub>レーザー、3TO、コレクティオを行い、脱毛外来ではSADBE療法を行っております。美容におきましては、以前施行しておりましたが、現在は形成外科や近隣のクリニックにお願いしております。

入院は定数9名ですが、昨年、多い時は18人になることもあり、悪性腫瘍や足壊疽の重症患者も多いため、A、B2チーム制に分けて、毎日朝夕2回の病棟カンファレンスを行い、夜は全員で回診を行っております。

また、地域の勉強会としましては、前国際医療福祉大学熱海病院病理学教授であります北村創先生をお招きして、年4回、病理を中心とした横須賀皮膚科専門医カンファレンスを開催、また、講演会も年2回程、昨年は島根大学の千貫祐子先生に蕁麻疹とアレルギーについて、順天堂大学の高森健二先生にかゆみについてご講演いただき、近隣の病院、クリニックの先生方にお越しいただきました。今後も地域連携を大切にして、基幹病院としてのニーズに応えるべく頑張っていく所存です。今後、益々のご指導・ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院 (平塚市)

前田修子

平塚共済病院は大正8年に海軍火薬廠の職員・家族のための医療機関として開設されました。95年以上の歴史を経て現在は、稼働病床441床の地域支援病院で、年間5,000件の救急車を受け入れる救急センター、神経内科と脳神経外科が共同して開設した脳卒中センター、循環器科と心臓血管外科が協力して運営する心臓センターを併設しております。

平塚駅北口からバスで10～15分程、富士山と海を眺望できる病院です。隣には平塚総合公園があり、四季折々の色合いも堪能できます。2019年に100周

年を迎えます。その記念事業として新外来・中央棟の建て替えを行う予定です。

筆者は、横浜市立大学附属病院皮膚科の人事で、平成25年4月に当病院に赴任しました。横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、横須賀共済病院、横浜市立市民病院を経て、当病院に赴任しました。

平成25年4月より山本悠飛先生と平成27年4月より堀田亜紗先生の常勤3名体制で診療を行っております。平成28年4月からは種子島智彦先生が赴

任されました。

外来診療は3診体制で行っており、月曜日から金曜日まで午前中8時半から一般診療の受付を行っています。午後は生検、手術、レーザー治療やピーリング、陥入爪に金属ワイヤー法といった自費診療、皮膚テスト（プリックテスト・パッチテスト）、学童外来（火曜日、金曜日14時～16時）、入院患者の往診、褥瘡回診（月曜午後）を行っています。手術は、脂肪腫などの良性腫瘍から、基底細胞癌や有棘細胞癌などの悪性腫瘍の手術や潰瘍、熱傷に対する植皮術を行っています。毎週水曜日に全身麻酔での手術、火曜日以外の毎日（月曜日、水曜日、木曜日、金曜日）の午後は局所麻酔での手術を行っています。

外来診療を支えてくれるコメディカルは看護師さん2名/日、クラークさん1名です。病棟は混合病棟で整形外科、形成外科と一緒にいます。

新患受付は平日午前中ですが、医療連携支援センターをご利用いただければ、午前・午後ともに紹介予約として受け付けております。時間外救急の場合は救急センターへご相談下さい。

診療内容は薬疹、アトピー性皮膚炎等の湿疹・皮膚炎、乾癬、水疱症、悪性腫瘍を含めて、皮膚科疾患全般への対応を心掛けております。そのほか、重症乾癬に対する生物学的製剤も行っています。

また、保険治療では対応できない領域は一部自費診療で扱っており、皮膚科専門医のもとで安心した治療を受けていただけることを目指しています。美



後列左より：クラークさん、外来看護師2名  
前列左より：堀田亜紗医師、筆者（前田）、山本悠飛医師

容領域に対しては、レーザー治療、ピーリングを積極的に行っており、市内外からの症例を受け入れています。ハイドロキノン、トレチノイン、コエンザイムQ10、ビタミンCローションを販売し、指導を行っています。巻き爪ワイヤー矯正も行っています。

難治性潰瘍を対象とした皮膚創傷ケア外来では、外用治療のほかに陰圧閉鎖療法、マゴット治療などを組み合わせた複合的な治療により、創部の早期治癒と再発予防に取り組んでいます。

今後も信頼ある医療の提供とともに、地域の皆さんに情報を発信し、患者さんにとって開かれた病院であり続けたいと思います。他の医療機関との役割分担や逆紹介システムの活用をもとに地域連携を一層推進していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

#### 週間日程表

	月	火	水	木	金
午前	新患 再来	新患 再来	新患 再来	新患 再来	新患 再来
午後	手術 褥瘡回診 病棟	レーザー治療 学童外来	手術	手術	手術 レーザー治療 学童外来